◎連続掲載　未来へのたすき

踏み出した一歩

東日本大震災から間もなく2年が経過します。原発事故の影響から多くの方が故郷に帰れず、今なお先行きが読めない状況が続いています。

このような苦難の中でも、自分がやるべきことを見いだし、頑張る人たちがいます。

今月号では、明るく前向きに頑張るお二人にスポットを当てます。

横断歩道での1時間のドラマを毎朝楽しんでいます

「おはよう。今日も気をつけていってらっしゃい」。

表郷金山の交差点に立ち、通学する子どもたちに声をかける佐々木庸太郎さん。氷点下の気温の中でもどこか温かく、やさしく包み込むような声が響きます。

「おはようございます」。

小学生、中学生、高校生も元気なあいさつを返します。

「おととしの9月からこの場所に立ち始めました。始めのころは子どもたちも照れていたのか、なかなか返事が返ってきませんでした。でも次第に声が増えてきました。今ではすっかり顔なじみで、いろいろな会話も交わします。私はこの朝7時から8時までの、1時間のドラマを毎日楽しんでいます」。

佐々木さんがこの交差点で、交通誘導を始めたきっかけを伺いました。

「浪江町で交通教育専門員を始めて7年目のときに震災がありました。震災後、初めて一時帰宅したとき、真っ先に手にしたのは、町から貸与されていた専門員の制服でした。警察官の制服に似ているので、盗まれて悪用されたら大変だとずっと気になっていました。手にしたときはほっとしたものです。専門員であったことが、表郷の交通安全協会の方に聞こえたのがきっかけで、新たな一歩が踏み出せました。何もすることがないと気が抜けてしまうので、毎日の日課があることはとても幸せなことです。また、この活動で地域の方とのコミュニケーションも深まり、カラオケや飲み会の誘いもいただくようになりました。白河はとても住みやすく、何よりも心がこもった親切を感じます。私の日課で、少しでも白河に貢献できたら嬉しいです。今後も日々、前向きに活動していきます」。

1月21日には、浪江町での交通教育専門員の活動を白河でも継続していることが評価され、白河警察署長から感謝状が贈呈されました。

person 01

Sasaki Youtaro

佐々木庸太郎さん (72)

表郷金山

浪江町出身。浪江では交通安全協会の副会長を務め、町で2人の交通教育専門員の1人。

親せきがいたことから平成23年6月に表郷金山での生活を開始。浪江での経験を生かし、同年9月から毎朝交差点で交通誘導を行い、子どもたちの安全を見守っている。

仕事にプロ意識を持つことを常に心掛けて行動します

「はい、こちら白河消防署です」。

ハキハキとした口調で電話の応対をする坂本正喜さん。かねてからの念願をかなえ、消防士として昨年4月から白河消防署に勤務しています。

「親せきがいたので白河に来ました。中央体育館でのボランティア活動を通して、白河の方の心の温かさに触れ、ここ白河で新たなスタートラインに立ち、一歩踏み出そうと決断しました。震災前からも消防士を目指して勉強をしていたので、消防士になれて本当に嬉しいです。昨年の4月から9月までは、県の消防学校に入り訓練を受けました。厳しい訓練でしたが、生活をともにした仲間と、泣いたり笑ったりできて、とても仲間意識が強まりました」。

新たな一歩を踏み出し、新しい〝仲間〟に巡り合えた坂本さん。富岡町チームのキャプテンとして出場した昨年のふくしま駅伝では、故郷の仲間とも久々の再開を果たしました。

「離れてみて、改めてふるさとの良さを実感し、郷土愛が高まりました。どんな形でもいいから貢献したいと思っています。ふくしま駅伝も過去に6回出場していたこともあり、率先して出場を希望しました。避難先がバラバラだったため、選手の確保が大変で、連絡を取るのも一苦労でしたが、仲間がそろったときは懐かしさが込み上げてきました。大会では総合順位を昨年より5つあげることができて、みんなで喜びを分かち合いました。私は、白河市チームの練習に参加させてもらいトレーニングすることができたので、白河市チームにはとても感謝しています」。

本格的な勤務を始めて4か月。坂本さんの今の思いとは。

「田崎（たさき）隊長（白河消防署）の言葉が胸にあります。市民の方には新人もベテランも関係ない。一消防人としてプロ意識を持ち、市民目線で行動すること―。これを常に心掛け、白河に少しでも貢献したいと考えています。まだまだ不慣れなことばかりなので、まずは仕事を覚えること。そして、日々勉強し、いずれは救急救命士の資格を取りたいです」。

坂本さんは、笑顔でもう一言加えました。

「ふくしま駅伝は、走れる限り走り続けたいですね。〝富岡町チーム〟で」。

person 02

Sakamoto Masaki

坂本正喜さん (28)

金屋町

富岡町出身。本市に避難後、ボランティアスタッフとして献身的にボランティア活動に携わる。

昨年4月に念願の消防士としての生活をスタートし、現在は白河消防署に勤務。

ふくしま駅伝2012では、富岡町のキャプテンとして活躍する。